

2019-4 経営協議会議事概要

日時 令和元年11月22日(金) 13:30~15:35

委員 駒田学長(議長)

志田, 銭谷, 高木, 西岡, 村本, 渡辺

山本, 緒方, 尾西, 梅川, 伊藤(公), 大高 各委員

列席者 富樫, 野崎, 橋本, 西村, 鶴岡, 吉松, 吉本, 富本 各副学長
服部監事, 山中監事

◎新任委員の紹介

学長から新任委員の紹介があった。

◎議事概要の確認

2019-3の議事概要(案)について, 了承された。

I 審議事項

1. 令和元年度目的積立金の追加配分・予算組換え案について

大高事務局長から, 「資料: 審-1」に基づき, 目的積立金の, 当初予算に対して実際の執行額が確定したことによる差額調整, 及び新たに承認された目的積立金に対する用途の決定による配分案について説明があり, 審議の結果, 原案どおり承認された。

<主な意見>

○目的積立金は, 予算的にはできるだけ残しておいた方が良いと思うが, 今年度中に予算配分する必要性がある案件だということか。

→そのとおりである。目的積立金は緊急性や必要性の高い案件に執行しなければならず, また, 第3期の目的積立金をそのまま第4期に残しておくことができない。

II 報告事項

1. 平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

尾西理事から, 「資料: 報-1」に基づき, 平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価結果についての報告があった。

<主な意見>

○「順調」の評価だけの大学が多いところ, 「一定の注目事項」があるのは大変素晴らしい。特に工学部の内容は大変素晴らしく, また, 留学生

の派遣受け入れと若手教員の採用も高い評価を得ており、全体として大変良い評価をいただいていると思う。

2. 給与改定の方針について

大高事務局長から、「資料：報-2」に基づき、令和元年人事院勧告の完全実施が閣議決定されたことを受けて検討し決定した本学の給与改定の方針についての報告があった。

3. 新年俸制の制度について

尾西理事から、「資料：報-3」に基づき、新年俸制を来年度から導入することを決定した旨の報告、並びに導入の趣旨及び制度のポイントについての説明があり、次いで企画総務部人事労務課長から、具体的な制度についての説明があった。

<主な意見>

○来年度から新規採用の教員に新年俸制を適用するということだが、在職中の教員も新年俸制を選択できるのか。また、評価の制度はどうなっているか。

→在職中の教員も希望すれば選択できる。評価については、学部によって評価の手順や項目、やり方が異なるので、現在検討作業を始めている。

○運用が非常に難しいと感じる。評価がいちばんのポイントだが、評価の区分ごとの割合が決められているということは相対評価である。また、D区分は懲戒処分等の事由があった場合なので、標準はC区分だと考えると、いくら仕事をしなくても標準より下にならないことになる。年俸制導入の目的の一つはモチベーションだと思うが、相対評価だと、非常に頑張っても、順位をつけて上位の区分から漏れると次の区分になってしまう。その区分ごとの最終の割合はどのように決められたのか。

→原資の問題があり、大学の財務経営上、相対評価にせざるを得ない。それが良いかどうか問題はあるだろうが、原資から割合が決められた。

→原資については、国の基準を超えて特別昇給をさせた場合、その部分の退職金が国から措置されないという事情もある。

○評価結果は、各自へフィードバックされるのか。

→フィードバックしている。

○複数の学部があり、評価者も一人ではないと思うが、学部をまたがっての評価の基準など、どのような工夫をされているのか。

→教育・研究・社会貢献・国際交流・管理運営といった全学共通の基準があるが、それぞれのエフォートは各部局で決めることになっている。各

部局長がその部局の最終評価者として評価を行い、それを全学として、学長のところで最終的な調整をしている。

→現在、評価の制度の検討を行って、これまでの個人評価をベースに、それを改定した形になるだろうと考えている。なかなか難しいところもあるが、教員のやる気が出るような制度にしたいと思っている。

○評価のスケジュールはどうなっているか。教員の1年間の業績を、次年度に評価し、それを4月に遡って給与を支給するのか。

→そのとおりである。

4. デジタルサイネージ（電子掲示板）による学生への企業情報提供について

山本理事から、「資料：報-4」に基づき、デジタルサイネージ（電子掲示板）による学生への企業情報提供についての説明があった。

<主な意見>

○放送枠は400枠あるが、どのくらい埋まる予測なのか。

→頑張って全部埋めるように命令している。生協の食堂に2か所設置するが、学部にも既に小型のモニターがあるので、そういうものも活用していきたいと思っている。企業の就職説明会には約600社が来られるが、そこで少しお伺いしたところ良い感触があった。値段的にも相応だということだったので、中小企業の方にも広く使っていただきたいと思う。学生が見て、良い企業で美しい画像だと感じるような良質な広告であることを希望している。広告の制作も業者にお手伝いいただくことも可能である。令和2年4月1日から運用を開始して、出来上がったときには皆様にもご覧いただきたいと考えている。

→生協の第一食堂は月に約3万人、第二食堂も工学部、医学部を中心に約1万6千人の学生が利用する。多くの学生が広告を目にすることになるので、企業の方には積極的にご参加いただければと考えている。

○クオリティの良いものを希望しているとのことだが、そのコンテンツは企業が作るのか、その制作会社が作るのか。

→既にお持ちのものがあればそれを活用いただけるし、委託業者が新たに作ることもできる。基本単位の15秒（1枠）や30秒（2枠）、最大で1分（4枠）くらいと想定している。

5. その他

(1) 環境報告書について

梅川理事及び施設部長から、「資料：報-5」に基づき、環境報告書についての報告があった。

(2) 次回開催について

2020年1月24日（金）15：00から開催することを確認した。

Ⅲ 意見交換

1. COC+事業5年間の活動報告について

富樫副学長から、「資料：意-1」に基づき、COC+事業5年間の活動報告についての説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- とても良いプログラムだと思う。どんどん進めて欲しい。ただ、受講者数がまだ少ないと思うので、多くの方が行きたいものを選択して受講するようになればもっと増えるのではないか。企業も協力して、非常に良い機会となっており、実学でもある。
- 大変良い試みをされてこられたと思う。自分の学んでいる地域を学ぶということはとても大事なことであり、三重大学と他の大学とが協力して事業を行ってきたのも大変素晴らしいことだと思う。インターンシップ参加者は増えているようだが、今後は県内企業のご理解、ご協力をもっと得て、この事業を進めていただければ良いと思った。
- インターンシップ参加者数はこのCOC+事業に協力する企業だけに限った数値なので、実際はもっと広く広げている。今年度の入学者からインターンシップを卒業要件化したので、もっと増えるはずである。
- 少し広げ過ぎではないかと思う。三重のことを学ぼうというのは、それで人材が三重に定着するかどうかは分からないが、非常に良いことである。授業を各大学で共同して行おうというのも良いことである。また、もう少し論点を絞って、他の大学と協同して三重の実情をよく知りましよう、というのも非常に有意義な事だと思う。ただ、それを資格に結びつけるとなるとよくわからなくなる。また、三重大学がこのような試みを行い、他の大学を巻き込もうというのだが、実際にはそれほど巻き込んでいないと思う。資格のことよりも、実際にいつ、どのような授業を行ったら良いのかということのを他大学と協議しながら進めていく方が良いのではないか。ここで一度立ち止まって、何が良かったのか、何が悪かったのか、整理してみてもどうか。

- まだ始まって5年ほどのもので、成果が出てきたのはここ1, 2年であり、これからのものと思う。また、三重県では、他の大学も教員も学生も、三重大学と一緒にやるのは敷居が高いと思うが、それを三重大学から皆に対して一緒にやっっていこうという、この考えが良いと思う。
- 企業があまり横展開出来ていないのは何故だったのか。もう少し広がりを持って進めていければ良かったのではないかと思う。しかし、試みや内容、目指すところは素晴らしいし、いったん補助金の区切りがつくので、本当の成果はこれから問われるところだと思う。これまで積み上げたものについて課題を整理していただき、継続するものしないものを選択して、プログラムを磨いていただきたい。
- 先日聞いた話では、東京の有名大学では、昔は大企業に就職する学生がとて多かったが、最近はベンチャー企業や中小企業への就職や、あるいは起業するというアメリカ型の学生もずいぶん増えているという。三重や中部は保守的な地域なので、まだ、過去の考え方が根強くあるわけだが、このような試みの中で中小企業に目を向けてもらうとか、自ら起業するとか、ベンチャーに就職するとか、そのような学生が増えてくると、三重の経済にも新しい風が吹くのではないかと思った。そういった観点からもプログラムを見ていただくと、企業にとってもっと魅力を感じるプログラムになると思うので、ご検討いただければと思う。
- 非常に幅広く活動されている。ただ、大学や一部企業の間では知られていても、一般的な、三重県全体への広がりという観点では、この話題が取り上げられるケースはまだまだ少ないのが実態だと思う。だから、この活動を一般的に認知されるような活動にまでどのように広めていくかというのは課題の一つだと思った。それから、この活動の究極の目的は県内就職率を上げ、若者を県内に留めて三重県内を活性化していこうということだと思うが、この活動と県内就職率との関連性はどこまであるのか、もっと他に県内就職率を高めるための施策を色々行わないとファンタジスタだけではやはり限界があるのではないかと、現在の活動だけでは何か足りない部分があるのではないかと強く感じた。
- この計画が立ち上がったときに、それぞれの大学がそれぞれの教育理念を持っているので、それを全体の中で結び付けていくのかという点がとても難しいのではないかと思った。高等教育コンソーシアムみえのように、この科目を三重県の中の大学でやりましょうということであればやるのが明確だが、この事業は非常に幅が広く広範囲なので、それぞれの大学がどこをどのように擦り合わせて行けば良いのかがわかりにくく大変だろうと思った。また、COC+事業としての5年間が終わるが、活動を継続するためにもどのように予算措置していくかが非常に大きな問題

だと思う。

- 三重県は中小企業が非常に強く、特徴のある企業がたくさんあるので、それらの企業を見ながらベンチャー企業がどれだけ立ち上がっていくのか、そしてどのようにどれだけ増えていったのかということがわからないと、評価に繋がらないのではないかという話がある。三重大学の学生も色々な分野で活躍されているので、三重大学の卒業生がベンチャー企業をどれだけ立ち上げていったのかというのを、何年かかっても良いからデータを取っていくと貢献度が明確に見えてくると思う。
- 学生の評価を見ると、PBLという教育手法についてはしっかり書かれているが、三重に対しての部分の内容が少し薄いように感じる。三重についてこういうことを勉強したといったことが書かれるようになれば、とても説得力があるのではないかと思った。今後、どのように認知度を上げていくのかということと、内容のブラッシュアップをしていくともっと良くなると思う。
- 配付資料のとおり、知事からも、COC+事業について、年度末まで事業をしっかり取り組んでいただきたい、三重県も協力していくのご意見をいただいている。本日皆様からいただいた意見を基に、ブラッシュアップ、レベルアップして、より良い事業にしていければと思う。次年度以降、この事業がどのようになったのか報告したいと思う。

以上